

## 大江礒吉と柏原中学校

創立 122 周年記念講演会は、本校 14 回生荒木謙先生に「大江礒吉と柏原中学校」という題でお話いただきました。お話にもあったように、先生は本校で 23 年間教壇に立ち、創立 100 周年の記念行事に関わられました。記念事業を進める中で、当時はまだあまり知られていなかった大江礒吉に興味を持たれたということでした。今では第一人者として、全国各地でご講演もされているそうですが、私が高校生の頃は野球一筋に見えた先生が、ふとした好奇心から深く研究に踏み込まれていったことに感銘を受けました。講演内容をかいつまんでおさらいしておきます。

本校の前身である旧制柏原中学校は「氷上郡立」として県下で 4 番目の中学校として誕生しました。なんとしても、この地に中学校を建てたいという当時の氷上郡民の熱意があったからでした。初代校長は土井亀之進。のちに二宮尊徳（金次郎）の先駆的研究者となります。このころ、兵庫県知事を務めていた服部一三は「八大中学校構想」を掲げ、「教育県兵庫」を目指しました。中学校の校長は帝国大学か東京高等師範出身であることを条件とし、大江礒吉に白羽の矢が立ったのです。

大江礒吉は、生徒を中心に据えたアカデミックで自由闊達な学校を目指しました。新教育課程を定め、どんな上級学校への進学も可能なカリキュラムにしました。「郡立」だった学校を「県立」にし、授業料を 5 円 5 0 銭から 2 円 3 0 銭へ、翌年は 1 円まで値下げしました。創立当初は中途退学者が多く、「これでは貧しいものは学問で身を立てることはできないではないか？」と考えたからでした。氷上郡で国税 1 5 円以上を納めて選挙権を持つ人が 8 3 名という時代でした。「学友会」を創設し、生徒の自主的な自治会やクラブ活動を容認します。山の中にありながらボート部があり、池や川で船を浮かべて活動していたとか…。ボート部を作った理由は、「島国の日本が世界に通用するためには船を使った交易や海軍が必要だ」と考えたからというから驚きです。演説部では有田、細田、芦田の「三田ガラス」が活躍し、その三人ともが後に日本の政治界、経済界をリードしていくことになりました。生徒に対してだけでなく、教員に対しても資質向上を働きかけ、徳育・体育偏重教育から知育を尊ぶ教育を要求します。これによって柏原中学からは優秀な教員が数多く輩出されたということです。

歴史上、有名な出来事に「ボイコット寸前の第一回卒業式」があります。日常茶飯的に行われていた鉄拳制裁を、大江は厳しく戒め、暴力をふるった上級生を下級生に謝罪させるなどしました。怠惰を戒め、成績に関しても厳格に対処したため、反発も招いたようでした。第一回卒業生は学校への抗議文を廊下に掲載し、自分たちだけで（教員を入れずに）記念撮影をすると、さっさと校門を出て行ったそうです。大江は彼らを罰することなく、「ひとたび、卒業証書を渡したら彼らは社会人だ」とその行為を許したのでした。卒業記念品もなく去っていった卒業生を不憫に思った担任の近藤安太郎は、5 年木の楠を現在の場所に植樹しました。1 2 2 周年の今年、この木の樹齢は 1 2 7 歳となります。

画期的な改革を次々に行った大江でしたが、「急性盲腸炎」「腹膜炎」を併発…。

同じころ、「腸チフス」で危篤状態にあった継母のもとに駆け付け、自らも腸チフスに感染し、継母よりも先に他界します。この時、立派な洋服を村境で脱ぎ、粗末な被差別部落民の姿に着替えて帰郷しました。「この様相は何を意味するのでしょうか？」というのが、荒木先生から皆さんに与えられた課題でした。大江礒吉がいなければ、今の柏原高校も校庭の楠もなかったかもしれません。…奇跡ですね。

1 2 2 年の歴史に思いを馳せ、この学校で学ぶことに対する誇りや喜びを感じてもらえれば幸いです。



## 課題とそれに対する回答

「大江磯吉は校長になった後も、帰郷する時は被差別民の姿に着替えていた。これは何を意味するのか？」

「自分の努力で高い位を手に入れたとしても、自分の故郷はこの被差別部落であることに変わりはないということ。決して偉くなったからといって、同じように差別をするわけではなく、差別を受けている村であっても、その故郷を愛しているということの現れだと思います。そして、その気持ちを忘れてしまわないようにするための戒めでもあるのかなと感じました。講演の中で、『卒業式をめちゃくちゃにした卒業生をだれ一人として処分しなかった』ということを知りました。人の良心を信じていたり、子どもの教育のためにこれだけの熱意を注げたりするところから、村の人のことを対等に見ているのだと思いました。それを、形として目に見えるものとして表せるのが服だったからなのかな、と思いました。周りから見ても分かりやすいので、差別を少しでも抑制できるかもしれないという思惑もあったのかなと考えました。」

(1年女子)

「大江磯吉は、校長の服のままで帰郷すると村の人が接し方を変えてくると思ったから、被差別民の姿にわざわざ着替えて村に入って行ったと思う。これは、大江磯吉校長としてではなく、大江磯吉という一人の人間として接してほしいという願いが表れていると思う。部落差別を受けていた大江磯吉だからこそ、強く思ったのだろう。本当は身分どうこうで差別してほしいくない、ありのままの自分で平等に村人たちと話したいという願いからきている行動だと思う。」(2年女子)

「普段は教育者として、国を背負っていくであろう学生たちを懸命に教育し、教育環境を整えるために奔走する傍ら、故郷に帰る時は、自分は理不尽な差別を受けてきたんだという現実を忘れないようにするために、被差別民の姿で帰郷していたのではないかと思います。故郷から離れて仕事をしている大江磯吉にとって、このことを忘れるというのは、今まで受けてきた辛い差別を戦わずして容認することであったので、この現実と戦い差別をなくすという信念を彼はずっと持ち続けていたと思います。また、ふるさとの家族や仲間と同じ想いを分かち合うためにも、被差別民の姿で故郷へかえったのではないかと考えます。仕事のことで頭がいっぱいになっている時でも、大江磯吉は差別と闘うことを忘れることはなかったと思います。」

(2年男子)

「120年以上の歴史を持つ学校を作るのに大きくかかわり、校長を務めたとても偉大な大江磯吉は、偉大な存在になっても自分の生まれ育った故郷に自分がここまで大きくなったことを感謝する気持ちがあったことを意味すると思う。また、生まれ育った自分の故郷が被差別部落であること、自分が被差別民だということ、どれだけ偉大で高い地位に就いたとしても、決して苦しい思いをしている人々がいるということ、忘れないようにすることを意味していたんだと思う。大江磯吉は被差別民の姿に着替えることにより、故郷の村への感謝の気持ちを伝えていた。」

(3年女子)

「私はこの行動には二つの理由があると思います。一つ目は、自分の居場所は今も昔もここにあるということを村の人々に伝えるということです。働いているときの服装で帰郷すると、村の人たちは「えらそうになった」とか「自分たちは見捨てられた」と思うかもしれません。でも、被差別民の服装で帰ることで、出世して偉くなった今でも、村のことを決して見捨ててなどいないし、自分の居場所はずっとここにあるということを伝えられると思います。また、その村の子供たちのためでもあると思います。今、もしかしたら部落差別で悩んでいるかもしれません。でも、出世した自分が帰ることで、その子供たちに夢は叶うと伝えられるし、夢や希望、勇気を与えられると思います。二つ目は自分自身も、自分の居場所はここにあるということ、忘れないようにするためです。出世する中で被差別部落生まれということで、理不尽な嫌がらせを受け、悔しい思いをしたり、苦しくなったりしたこともあるはずですが、でも、今の自分があるのは全て村に住む人々のおかげだと思います。そして、自分の原点もその村だと思います。部落差別の経験を忘れないことが大切であり、その経験がこれから生きていく糧になると信じていたのだと思います。」

(3年女子)

## 宇宙船からのメッセージ

試験明けの7月12日(金)41回生でJAXA 有人宇宙技術部門 HTV 技術センター・技術領域主幹の田邊宏太さんをお迎えして「未来を運ぶ宇宙船『こうのとり』～日本初！国際宇宙ステーションからの物資回収～」という演題でお話をさせていただきました。

「宇宙とは」「宇宙ステーションとは」「こうのとりとは」「HTV 搭載小型回収カプセルとは」と、基本的な内容を一通りお話していただいた後、カプセル回収成功までの試行錯誤、このカプセルに施された工夫や、プロジェクトに関わった企業でのエピソードが、多くの画像と映像とともに語られました。どんな言葉が心に残っていますか？謝辞を述べた3年1組の浅田泰伸君も触れていましたが、伝説のフライトディレクター、ジーン・克蘭ツの10か条を英語と併せてみてみましょう。

1	先を見越して動け	Be prospective
2	自分の担当は自ら責任を持て	Take responsibility
3	きれいになるまでやり直せ	Play flat-out
4	不確実なものはその場で質問して把握せよ	Ask questions
5	考えられることは全て試し、確認せよ。	Test and validate all assumption
6	連絡も記録もすべて書き出せ	Write it down
7	ミスを隠すな。仲間の教訓にもなる	Don't hide mistakes
8	システム全体を掌握せよ	Know your system thoroughly
9	常に先を意識せよ	Think ahead
10	仲間を尊重し、信頼せよ	Respect your teammates

そして、田邊さんから贈られたメッセージです。校訓に繋げて語っていただいたのが印象的でした。

### 1 好奇心を大切に。夢を実現するための努力。(=進取創造)

何事にも積極的に取り組む。夢を持ち夢を目標とする。一見困難と思える目標も、強い意志と地道な努力により必ず達成できる。

### 2 心技体。日本人、丹波人としての誇り。(=質実剛健)

日本人として生まれ持った気質、豊かな自然と恵まれた環境に生まれた丹波人としての誇りを持ち、力強く前へ進もう。

### 3 一期一会、チームワーク、感謝の心。(=敬愛和協)

人は一人では生きられない。どんな仕事も一人では成し遂げられない。人との出会い、感謝の心を大切に。課題憎んで人を憎まず。信頼関係が築ければ道は開ける。

振り返って、講演会を通じて、後輩の皆さんに訴えたかったのはこの三つだったのだとよくわかりました。

プロジェクトが成功したのは「ALL JAXA」というチームはもちろん、長い年月をかけて積み上げてきた見えざる人たちの努力があったから(3)。実績を積み上げ、改良を重ねることで自分たちの宇宙技術が社会のために役立ってくれたらと願っている。このとりの次はHTVX、次のカプセルは自立型へ、最終的には友人宇宙船の開発へつなげたい(1)。お忙しい中、遠路はるばるこの丹波の地で「丹波人」である私たちに熱く語りかけてくださったこと(2)を肝に銘じましょう！

個人的には「片道一時間の自転車通学が今の自分のベースだ」とおっしゃった言葉が、心に残っています。ご両親に送り迎えしてもらっているその君。明日から毎日、自分の足でペダルをこいだら、宇宙船(夢)に近づくかもしれません。



## リサーチの進め方

5月28日(火)に探究Iでは関西学院大学フェローの高畑由起夫先生をお招きして、「課題研究の進め方」をテーマにお話しをいただきました。そこで一番強調されていたのは「レポートを書くことの大切さ」。レポートとは単なる作文・感想文ではなく、①テーマ設定②リサーチ③分析④考察⑤プレゼン・レポート・ディスカッション…という流れの中に位置づけられるものであるということでした。さらに、「リサーチとは、コミュニケーションである」ということも。学校を出て社会に出てからも、自分で課題を見つけ、仲間と解決法を探り、自分の考えを話せるようになるためにも大切なことです。リサーチを進める際の心構えとしては「社会への貢献を目指す」「客観性を保証する(数値を用い、先行研究を引用し、歴史的事実と照合する)」「公共性を意識する(ひとりよがりではいけない)」ということをお伝えされました。

物の見方・発想の転換という点で、皆さんに紹介しておきたい話をいくつか…。

「靴のメーカーの営業マンが、アフリカに市場調査に出かけた。ある地域では、ほとんどの人が靴を履いていない。これを見て、あなたは『ここでは靴を売れる』と判断するか、『靴は売れない』と判断するか？」

靴を履いていないということは需要がないのだから、「売れない」と判断するのも一つの仮説。誰も履いていないのだから、市場はこれから開かれると考えて「売れる」と判断するのも一つ…。ひとつの現象を見ても、ものの見方は一つではなく、だからこそ色々な意見を出し合うことが大切だという話でした。ちなみに、誰も履いていないのだから売れる！と考える人はどちらかという外資系(アメリカ)の会社のほうが向いているそうです。

「電鉄会社に勤める営業マンが、新しく路線を引く予定地を視察した。沿線に家はまばらで、何もないうえに土地は安く、電車を利用する人がいるのか疑問だった。予定通り工事に取り掛かっただろうか。取りやめただろうか。それとも、別の手段を考えただろうか。」

阪急電鉄の小林一三さんの逸話だそうです。上記は梅田から池田までの路線を敷いたときの話です。小林さんは安い沿線の土地を買い占め、家を建てて、当時は珍しい分割払いで、大阪で働くサラリーマンに売ったそうです。そこに家を買った人は電車で通勤するようになるので、家がないなら、家を建てようという発想だったのです。さらに、阪急百貨店や宝塚歌劇場を建てて、そこに住む女性たちが電車を利用して遊びに出かけるように仕向けます。

「ある食堂では、カレーライスが人気商品だった。しかし、不況のあおりでカレーライスを食べるお金がなく、ライスだけを頼んでテーブルに備え付けのソースをかけて食べる客が増えてきた。売上は伸びず、ライスだけの注文を禁止すべきだという声も。この時、経営者はどう答えたか？」

これも同じく小林一三さんの話です。禁止するどころか、逆に「ライスだけのお客さん、大歓迎」の張り紙をするようにしたとか。そのころは？「食堂に来続けていると、やがて家族を持った時に夫人と子供を連れて遊びに来るだろう。その時には3人以上で食べに来て、生活も今より豊かになっているはずだから今よりも売り上げに貢献してくれるだろう。」ということでした。



# TAIWAN とは何か？ TAMBA で考えた

10月11日（金）には「台湾とは何か」の著者、野嶋剛先生に講演していただきました。「台湾を学んで、日本を知る」「台湾を学んで、中国を知る」「台湾を学んで、世界を知る」「台湾を学んで、台湾を知る」という4つの柱に沿って話が進みました。



## (1) 「日本を知る」

冒頭では、王貞治、ジュディオング、蓮舫、東山彰良、一青窈など、日本の各界で活躍してきた人が紹介され、チキンラーメンや551の蓬莱など私たちの生活の中で「日本人の食事、日本の文化」の一部となっているものが、実は台湾出身の人によって作られたこと、「台湾まぜそば」が流行っているが、実は台湾にはそのような麺は存在しない！はやりのタピオカも、街角で売られているお茶の種類にすぎない。…と、修学旅行を1か月後に控えた2年生の皆さんには興味深い話が飛び出していました。そんな軽い話から、一転、李登輝の「私は昔、日本人だった」という言葉。台湾の人が口にする「日本は台湾を二度捨てた」という言葉について解説されました。一度目は、1945年、敗戦によって手放したこと、二度目は1972年、中華人民共和国との国交正常化に伴い断交したことを指します。それでも、台湾では「一番好きな国」として今でも7割近くの人が日本を挙げていること、東北の震災には200億円（実際の価値としては250億円！）もの義援金が集められたことなどを挙げ、「日本が植民地統治した台湾の人たちは、どうして日本に好感を持っているのだろうか」「国交はないのに、韓国や中国と比べて、どうしてこのように関係がよいのだろうか」「日本はこれからの将来、どう台湾と付き合いしていくべきだろうか」と、三つのお題が投げかけられました。考えてきましたか？

## (2) 「中国を知る」

中華人民共和国の憲法で「台湾は神聖、かつ不可侵な領土」と明記し、「一国二制度で統一を目指す」と言いながら80年間、統一されていないのはなぜかという問題が問われました。戦後、国民党と共産党との戦いに敗れた国民党が台湾に逃げ込んだ…つまり、もともとは中国人同士の「兄弟げんか」だったはず。でも、台湾は「え？兄弟だったの？」という見方をしているということでした。「中国との統一は絶対にNO」「経済的には中国と仲良くなりたい」「政治的自由は守りたい」というのが台湾の人たちの考え方だとも…2020年には、総統選が行われ、国民党、民進党のどちらが勝つか注目されています。それを前に、修学旅行で訪れたときは選挙活動が盛んだらうということですから、街を見る目も変わりましたね。…そういえば、2016年、私が前に修学旅行に行ったときには選挙ポスターが町中で見られました。昨今の香港での状況を見て、「今日香港、明日台湾」という言葉があるそうです。周辺で起こっていることを、他国のことだと思うのではなく、「今日香港、明日日本」という危機感を持つことも大切ではないか、と問われました。

## (3) 「世界を知る」

現在、台湾と国交のある国は、以前より減って15か国になったそうです。だからといって、「台湾は国ではない」と言い切れるのでしょうか？というのが、次の問いでした。「付き合いしていた二人が交際をやめたときに、『あなたは人ではない』と言うようなものではないのか？」というたとえ話が、この問題をわかりやすく説明していたように思います。「1970年ごろまで、台湾（中華民国）が正式な国連加盟国で、1972年まで日本と国交があった。では、1972年前の中国は国ではないのか？現在、日本と国交のない北朝鮮は？」…これが、ここでの宿題です。1学期には「台湾は国なのか」というテーマで議論しましたが、この講演を聞いて考え方は変わりましたか？

## (4) 「台湾を知る」

日本は他のアジア地域よりも進んでいる…という錯覚を抱きがちですが、「実は台湾のほうが一歩も二歩も先を行っている」と聞いて驚いた人もいるでしょう。「同性婚を合法化」「脱原発を果たし、2025年までの非核化を宣言」「マイノリティ、移民への対応」これらが、いずれも政府主導ではなく民間の運動が社会を動かしたという点が「進んでいる」と言われた理由でしょう。特に「外国人労働者」の問題は、私たちの身近にもあり、様々な文化的背景を持つ人たちとの「共生」は私たちが考えなければならない問題です。台湾でも、介護を必要とする高齢者の数は増加し、それを介護するのが外国人…という風景は珍しくないのだとか。また、週末になると、仲間たちとの集いを求めて、台北駅構内には様々な民族の人たちが集まってくるそうで

す。それを、「迷惑行為」の一言で排除するわけでもなく、受け入れている台湾は、日本よりもずっと進んでいるのではないかと…というのです。今回の修学旅行は週末をはさみませんが、街を歩く人々にも注意をしてみましょう。

最後は、再び食べ物話にもどりまして。今や、台湾と言えば小籠包ですが、これも元々は上海料理。日本人が持ち込んだ「弁当」は「便當」と姿を変えて売られているそうです。台湾オリジナルの食べ物といえば、「黒糖かき氷」だとか！大陸からは、各地の美味しいものが持ち込まれ、それが台湾の風土の中で新しい食べ物に変わっていく…いつか、私たちはそれを「台湾料理」と呼んでいますが、元をたどれば日本から入ったものもあるかもしれませんね。

まとめとして、「台湾は日本人である自分を見つめる鏡である」「台湾は中国や世界を考える入り口になる」「日本にはない台湾の多様性は学ぶ意味がある」という3点が示されました。そのうえで、今回、「台湾で何を考えるか」というタイトルでいただいた課題は…「台湾に、日本人はどんな恩返しができるだろうか」「台湾の若者は、どうして政治に一生懸命なのか」「日本は、台湾のどんな隣人になるべきなのか」…皆さんから提出される答えを楽しみにしています。

質疑応答では細見柗太君から「台湾で、どのように値切れればよいか？」と実用的な質問がされ、「アジアでの相場は、目標、売値の半額。まずは、さらに低く3割くらいふっかけて、妥協点を見つければよい。ただし、値切りはコミュニケーション！うまくいなくても楽しみなさい」というアドバイスをいただきました。さらに、竹安龍志君が「一番、損した（ぼったくられた）買い物は？」「中東でペルシャ絨毯を買わされたときは、相場を知らなくて失敗した。10万円と言われたのを値切って3万円程度まで落とすつもりが、実は現地では5000円程度だった。でも、勉強になった！」という答えでした。講演会后、廣瀬野乃佳さんが、「台湾で見ておくべき建築物は何ですか？」と尋ねに来たのに対しては、「日本統治時代の残した、西洋風の建物はそのまま残っているから、見ておくといいよ」というアドバイスが…。質疑応答で、ポンポンと手が上がる風景を徐々に見ました。皆さんにもわかりやすく、興味を持てる話だったでしょうね。野嶋先生も、好印象を持っていただいたようで、早くも「来年も是非！」と仰っていただいています。1年生の皆さんはお楽しみに！

この講演会を通じて、野嶋先生から求められていることは「考えること」…「台湾とは何か」の中にも、しばしば「思考停止」という言葉が見られました。わからないから、すぐに「知恵袋」に頼ったり、ググったりせず、本を読み、人の話を聴き、自分なりに考える習慣をつけましょう。「台湾」というひとつの入り口から、世界のこと、日本のこと、丹波のことを考えていききっかけとしてください。

## トビタッタ！～丹波から USA へ アメリカ研修旅行

7月24日～31日の1週間、「アメリカ研修旅行2019」と称して、井上校長先生、2年生知の探究コース・高見哲平君、谷垣研太君、廣岡潤哉君、石塚愛佳さん、井上桃さん、増田莉子さんと、ワシントン州ケント市、オーバーン市、シアトル市を訪問してきました。今回の研修内容は「スタンディングデスクの効用」「魅力ある学校」「多文化共生社会」の三本の柱でした。

まず訪れた Green River College は、ワシントン州で一番多く海外からの留学生を受け入れており、全校生徒 8000 人のうち、1500 人が海外からの生徒です（60 か国）。120 人が日本人だということで、これらの留学は 350 人がホストファミリーと、370 人が寮で生活を送っているそうです。編入実績も高く、学費は安いということでしたので、高校卒業後、海外の大学へ進学したいという人は参考にしてください。

キャンパスで学ぶ An さん、Yara さんは二人ともカリフォルニア出身で、将来的には英語の教員、広告の仕事をしたいと考えています。この二人に本校の生徒から質問する時間をとってもらいました。（詳しくは生徒による発表をお楽しみに！）



（写真：本校訪問のために会議室が用意されました。An さん、Yara さんと。

右：電光掲示板に「Green River Welcome Kaibara High School Japan」の文字

2日目には、長期留学生の受け入れでお世話になっている North West Student Exchange (NWSE) のオフィスを訪見し、そこで働く濱尾文乃（はまお あやの）さんにお話を伺うことができました。濱尾さんは高校時代に海外留学したいという願いを持ちながらも、踏み切らずに大学へ進学、就職…。夢を捨てきれず、自分で貯めたお金でアメリカへ留学されました。大学での授業は難しく、夜中の3時ごろまで勉強していたとか。両親を説得してきた手前、どんなに辛くても帰ることはできず、卒業までがんばったということでした。柏高生のみみなに対して「やると決めたら、何でもやってみてください。何とかなるから！海外にもどンドン、飛び出して、今しかできないことに挑戦してほしいと思います」というメッセージをいただきました。

続いて訪れた University of Washington (ワシントン大学・通称「ユダブ」) は大学というよりも一つの町です。ハリポッターに出てくるような歴史を感じさせる図書館、レンガ建ての校舎に圧倒されました。写真では伝えきれないので、機会があれば自分の目で見て行ってください。



今回の重要な訪問先は、ケント市・オーバーン市両役所です。それぞれの市長を訪問し、議会の行われる部屋でそれぞれの研究テーマに基づいて知りたいことを質問しました。

ケント市長の Dana Ralph (デーナ・ラルフ) さんは、かつて交換留学生として柏原高校で学んだことがあります。今でも、少しは日本語が出てきますし、高校時代のことはよく覚えていらっしゃるとか…。詳しい質問内容やその答えは、ネタバレになりますから生徒発表にとっておくとして、印象的だったことは私が「何故、市長になろうと思ったのですか？」と尋ねると、間髪入れず「ケント市を愛しているから」という答えが返ってきたことです。「ケントをよくしたい」という思いで、住宅、雇用、警察の強化に取り組んでおられます。30年前に比べると人口は10倍以上に膨れ上がり、その分、治安も悪化しているといいます。それでも、若い人たちが町に残って住み続けたいと思うのはなぜか？丹波市がそっくりまねできることではありませんが、ヒントはもらえるかもしれないと思いました。



オーバーン市長の Nancy Backus (ナンシー・バックス) さんは、数年前に丹波に来られたこともあります。オーバーン市もまた、人口が増えている地域で、公園や住宅の整備に力を入れているということでした。オーバーンでは市役所だけでなく、自慢の公園やコミュニティセンターにも案内してもらい、「若者議会」についても話を聞かせてもらいました。高校生たちが放課後のクラブ活動のように定期的集まり、自分たちの意見を市に聞いてもらっているということです。丹波市でもやってみてはどうですか？と担当者に勧められました。(＊両市長は10月に来丹。4日午後本校訪問が予定されています。)

オーバーンでは高校生との座談会も持ちました。この6月まで柏高にいた Kaylee さん、9月から留学予定の Naelli (ナエリ) さん、その友達の Emily さん、Jimmy さんの4人です。Jimmy くんは2年前にカンボジアから来た生徒で、「多文化社会」を研究している班の人にとっては参考になる話が聞けたようです。生徒発表でも出てくる話だと思いますが、アメリカは「多民族が当たり前」「みんな違って当たり前」なので、「外国人労働者が近所に来たら、どう思いますか？」というような質問はピンとこなかったようです。そもそも、見た目で誰がアメリカ人で、誰が来たばかりの外国人か見分けがつかないのですから…。



行く先々で、見るもの聞くもの初めてのことが多く、参加した6人にとっては一生忘れられない研修旅行になったことでしょう。文化発表会の中で、この旅行の報告は聞くことができます。そして、その旅行中に学んだことを踏まえて2学期以降に探究活動を深めてくれることと思います。期待しています。

## トビタッタ！BatTAMBang へ！ カンボジア研修

初日は、関空に集合しホーチミン経由でカンボジアシェムリアップへ移動する1日でした。ホーチミン空港では待ち時間が結構ありましたが、特に何をするでもなく、初めての海外を感じながら、目的地へと飛びました。シェムリアップに着くと、もう夕方ホテルまで送ってもらう途中で夕食をとりました。みんな初めての異国での食事ですが、食べ物はおいしいという期待もあり、実際口にしてのおいしさからラーメンなどを追加注文し、さすがに高校生！結構な量を食べました。



二日目、目的地バタンバンへ向かいます。まず今回の学校交流をコーディネートしていただいた丹波市出身で柏原高校卒業生の松岡秀司さんと合流しました。我々の到着を心待ちにいただいております、意気投合してバタンバン（Battambang）へ向かいました。ホテル周辺の道は朝から大変混雑していましたが、農地を抜けると地平線さえ見えるような道になっていきました。約4時間、ワゴンでの移動です。この日の昼食はHOC（ホープオブチルドレン）というところで食べました。日本人女性の岩本さんという方が孤児院の子どもたちと一緒にお店を運営されている、とても素敵なレストランでした。



昼食後、現地のインターナショナルスクールに入りました。向こうの学校からも3人の生徒（男子1人、女子2人）が対応してくれました。まず副管理人の先生から教育の重要性についてのプレゼンを聞かせていただき、その後柏原高校の学校紹介と自分たちの現在の研究テーマを紹介しました。プレゼンの後にいくつかの質問をしたところ、3人とも真剣にそれぞれの考えを答えてくれました。高校生同志向き合って話し合い、お互いの学校についての理解が深まりました。私立のインターナショナルスクールで3人とも小さい時から英語を話しているので、言いたいことは全部英語で話せる雰囲気でした。本校の3人はその英語力には圧倒されていました。英語を使ってコミュニケーションをとる活動を通して英語学習に対してモチベーションは上がってきたようです。

バタンバンに宿泊し、次の日は平和学習やバンブートレインなどのアクティビティを楽しみ、昼食後シェムリアップの町に戻りました。夜、ホテルについては早朝のアンコールワット訪問にそなえて早めに寝ました。

最終日はアンコールワットをはじめとして遺跡見学を1日行いました。ガイドさんの丁寧な説明でカンボジアの深い歴史を少し知ることができました。そして夕方、日本への帰路につきました。

## トビタッタ！金海へ！ 韓国研修

2019年12月27日（金）～30日（月）の日程で生徒11名、引率教員3名で韓国研修に参加してきました。今回の主な目的は金海女子高校との交流と金海外国語高校の生徒の家庭でのホームステイを通して韓国の文化を学ぶことです。

27日（金）朝6時のまだ暗いうちから柏原高校を出発しました。関空から飛行機の出発が少し遅れましたが、無事金海女子高校へ到着して歓迎式典をおこなっていただきました。生徒も同じことを感じていると思いますが、言葉が違えども笑顔と拍手で心から歓迎していただいているのがよくわかり、「来てくれてありがとう」という韓国の方々の気持ちが伝わってきて、感動しました。帰り際も名残惜しく何度も手を振りあっている生徒達の様子を見ると本当に来てよかったと思うと同時に、政治的な事情で民間レベルでの交流が制限されてしまうことが悲しいことだと感じました。生徒はホームステイを通して韓国の文化に触れて刺激を受けていました（例：韓国は食事を残すのが当たり前で、皿の上の料理を全て食べると、足りないのもう少しくださいという意味表示になる）異文化に飛び込むことは最初は勇気があることですが、その一歩を踏み出す勇気が、自分の見識を広め、人間的に成長させてくれる一助になってははずです。これからも海外へ踏み出すチャンスがあれば積極的に利用しましょう。



私は今回の韓国研修に参加して海外の人とコミュニケーションをとる楽しさや面白さを感じることができました。初めての海外で慣れない環境の中現地の人とコミュニケーションが取れるか心配でしたが、ホストファミリーも含めて韓国の人はとてもフレンドリーだったので言葉が通じない場面でもコミュニケーションをとる事ができました。また、夏ごろから日韓関係の悪化についてメディアなどでたくさん報道されていましたが、現地に行ってみると実際には政治上の事だけで民間同士の交流には全く関係なく日韓お互いに好意を持っている人がたくさんいることを体感しました。これからも今回の経験を生かして海外の人と積極的にコミュニケーションをとっていきたいと思います。

（白髭蒼奈）



## 生徒の意識調査

まず、昨年度1月、3月に本校の探究活動の指針とするために行った職員研修を開き、「どんな生徒を育てたいか」をテーマに話し合った。その場で、以下のようなことが挙げられた。

「学びに意味を感じてもらいたい」

「多様な価値観を持つ、多様な生徒を育てたい」

「チャレンジできる人間を育てたい」

「自信を持ってほしい」

「主体的で向上心のある生徒を育てたい」

6月に東京での中間報告会で配布されたアンケート結果、一枚目の総括表を見ると、

「グループで協力しながら学習、調べものをする人が多い」

「挑戦する人に対して応援する雰囲気がある」

「授業でわからないことを自分から質問したり、わかる人に聞いたりした」

という項目の数値が高くなっているのは、探究・総合活動の成果であると思われた。7割の生徒がわからないことは「質問したり、わかる人に聞いたりした」という一方で、「自主的に調べものを行った」という生徒は5割にとどまっている。「主体的で向上心のある生徒を育てたい」という職員の願いに相当する。「探究性」も5割強の生徒に見られるだけなので、半年後の意識としてどう変わってきたかに着目したい。

「地域から大切にされている雰囲気を感じる」という回答は高く、丹波地域が生徒たちに対して優しい「土壌」であることも確かである。一方で、「自分たちの地域を、外からの視点で考える機会がある」と答えた生徒は4割にとどまっており、地域学習を進める中で変化がみられるのかに着目したい。

生徒の自己認識としては「受容力」「対話力」の高さを感じる一方で、自己肯定感や「表現力」は弱く、上記の「チャレンジできる人間を育てたい」「自信を持ってほしい」という職員が願うのも当然だと思われた。最も弱いのは「批判的思考力」（複雑な問題を順序だてて考えることが得意だ）というものである。「勉強したことを実際に応用してみる」という項目も低いので、「学びに意味を感じてもらいたい」という想いをもちつつ「学び方」に対する意識の変化も見てみたい。

今年度の調査結果は3月に分析し、来年度の7月の調査までにまとめる予定である。

## <資料> 2019年1月22日(火)「望ましい柏高生」研修会報告書

センター試験直後、新学期早々の忙しい時期にも関わらず、多くの先生方に参加していただきありがとうございました。研修会ではKJ法を使って、「柏高生に望むこと」を付箋に書き出した後に、数人の班でそれらをグルーピングして、それをもとに「〇〇をしてもらいたいので、私たちは…したい」という言葉にまとめていただきました。あの場だけで終わるのではもったいないので、紙面で「望み」を共有していただき、今後授業や部活動などで活かす方法を、共に考えていきたいと思えます。



\* 3月末に、この内容について全職員で考える研修を開催した。

<p>学びに意味を感じてほしい ↓ これから生きる未来を想像できるだけの力を付けてほしい</p>	<p>視野を広げる + 多様な価値観を持つ ↓ 地域に出向く いろいろな人に出会わせる</p>	<p>多様性がある生徒を育てるために 私たちは講演会などでのテーマを深めるために、事後指導の時間をとる(生徒の)</p>	<p>「チャレンジできる人間を育てたいので、私たちは、 「チャレンジできる活動のチャンスを増やす。」</p>
--	---	--	--

<p>自信を持ってほしい ↓ 私事ですが「生徒との関わりを大切にする」武器を活かしてほしい</p>	<p>頭心を使い、自ら学ぶ姿勢を もたせる為に ↓ 授業で生徒に求めている材料を提供してほしい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら考え動く</li> <li>明確な前向きに</li> <li>勉強部活 etc に力を入れる</li> <li>興味好奇心を素直に動く</li> <li>× 押し付け → 自信をつける</li> </ul> <p>↓ 「積極性」を身につける ↓ そのために 支援環境を整える</p>	<p>主体的な心を持ってほしい ↓ そのために 体験をさせたい (例) インターンシップ? 体験合宿 親の仕事を見る など、リアルな現場を体験</p>	<p>向上心のある柏高生を育てるために 私たち自身も様々なことにチャレンジ人間としての幅を広げる</p>
---	---	--	---	--

# 「高校魅力化評価システム\_v2.0」 診断結果チェックシート

## ★総括表

高校名	兵庫県立柏原高等学校	年度	2019年度
類型	指定校・アソシエイト	17 SS	(うち教員 17)
全校	608 SS	1年生	184 SS
N数	210 SS	2年生	214 SS
		3年生	6人

### 【チェックシートの基本的な読み取り方】 このチェックシートでは、以下の5側面、4領域、3軸により、学校と地域での学びの状態を読み取り、今後のカリキュラム設計等に活かすことを意図しています。

- 5つの側面を：各校の（地域を含めた）学習環境や生徒の意識等を「1. 学習活動の機会」「2. 地域の学習環境」「3. 生徒の自己能力認識」「4. 生徒の行動実績」「5. 満足度」の5つの側面から把握しています。1枚目に5つの側面の総括、2枚目以降に各側面の詳細結果を示しています。
  - 4つの領域から：5つの側面について、各設問での集計に加え、各設問を「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」の4つの領域に区分し、各領域ごとの結果（構成する設問の結果の単純平均）も示しています。
  - 3つの軸で：上記のデータを「時間軸（過年度からの伸び）」、「学年軸（各学年による違い）」、「地域軸（他地域との比較）」の3つの軸で整理しており、これらの結果から各校・各地域の特徴（強み・弱み、伸びている点やその要因等）を読み取り、今後のカリキュラム設計等に活かしていただくことを意図しています。
- なお、それぞれの結果は基本的に、【割合(%)】（各項目で「4. あてはまる」1～「1. あてはまらない」）、「平均」(比較対象間での割合の差)、【割合の差(pt)】(比較対象間での割合の差) を用いて整理しています。

## 1 生徒の学習活動の機会

◎授業、総合的な探究、学校設定科目等における学習活動の機会の頻度

◎なお、高校1年生は中学校時代の学習活動の機会を回答

【全体傾向】

◎今月の生活全般に  
対する満足度  
(11段階6以上)

**72.0%**

特徴	割合
昨年度に比べて	-
学年間での差	<b>9.42</b>
他地域に比べて	<b>10.18</b>

◎本校へ入って  
良かったと思う

**82.9%**

特徴	割合
昨年度に比べて	-
学年間での差	<b>9.77</b>
他地域に比べて	<b>0.95</b>

## 2 地域の学習環境

◎学校や地域社会の学習環境として雰囲気、存在、機会の高さ把握

◎生徒による認識の高さと、地域の大人たちの自己認識との差（ズレ）の大きい項目を表記

【全体傾向】

【特徴的な回答結果】

分類	差	割合	設問
最大差	生徒高	<b>34.2pt</b>	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある
	大人高	<b>-20.3pt</b>	
生徒	高い	<b>87.5%</b>	挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある
大人	低い	<b>44.4%</b>	自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある
他地域に比べて	高い	<b>82.4%</b>	挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある
	低い	<b>41.2%</b>	本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある
他地域に比べて	高い	<b>6.3pt</b>	地域から大切にされている雰囲気を感じる
	低い	<b>-10.4pt</b>	人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある

## 4 生徒の行動実績

◎ここ最近（1ヶ月以内）の行動経験の頻度

【全体傾向】

【特徴的な回答結果】

分類	特徴	割合	設問
昨年度に比べて	上昇	-	授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた
	低下	-	
1年生	高い	<b>77.2%</b>	授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた
2・3年生	低い	<b>33.7%</b>	地域社会などでボランティア活動に参加した
他地域に比べて	高い	<b>71.5%</b>	授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた
	低い	<b>46.9%</b>	地域社会などでボランティア活動に参加した
他地域に比べて	高い	<b>7.7pt</b>	地域社会などでボランティア活動に参加した
	低い	<b>-3.6pt</b>	自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた

## 5 満足度

◎今月の生活全般に  
対する満足度  
(11段階6以上)

**72.0%**

特徴	割合
昨年度に比べて	-
学年間での差	<b>9.42</b>
他地域に比べて	<b>10.18</b>

◎本校へ入って  
良かったと思う

**82.9%**

特徴	割合
昨年度に比べて	-
学年間での差	<b>9.77</b>
他地域に比べて	<b>0.95</b>

## 3 生徒の自己能力認識

◎学びの結果としての生徒の自己認識を表示。レーダーチャートでは全体傾向を、特徴的な回答結果には、「学年による差」、「他地域との差」において特徴的な傾向がみられた回答を表示。

### 主体性 自ら課題を設定し、意志をもって（粘り強く）挑戦・行動する姿勢

【受容力】

【粘り強さ】

【共創力】

【対話力】

【情報活用能力】

【社会貢献意識】

【特徴的な回答結果】

分類	特徴	ポイント	設問
昨年度に比べて	増加	-	私は、自分自身に満足している
	減少	-	
学年に比べて	差が大	<b>12.11</b>	うまいく分かからないことも意欲的に取り組む
	差が小	<b>3.10</b>	自分にはよいところがあると思う
他地域に比べて	高い	<b>3.60</b>	現状分析し、目的や課題を明らかにすることができる
	低い	<b>-2.73</b>	

### 探究性 未来（よりよい人生と社会）づくりに向け、さらに学び・成長しようとする姿勢

【省察力】

【省察力】

【情報活用能力】

【批判的思考力】

【特徴的な回答結果】

分類	特徴	ポイント	設問
昨年度に比べて	増加	-	勉強したものを実際に応用してみる
	減少	-	
学年に比べて	差が大	<b>12.10</b>	情報を、勉強したこと関連づけて理解できる
	差が小	<b>4.33</b>	家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する
他地域に比べて	高い	<b>11.37</b>	勉強したものを実際に応用してみる
	低い	<b>-10.62</b>	

### 社会性 地域や社会の課題を自分事としてとらえ、積極的に貢献しようとする姿勢

【学びの意欲】

【学びの意欲】

【情報活用能力】

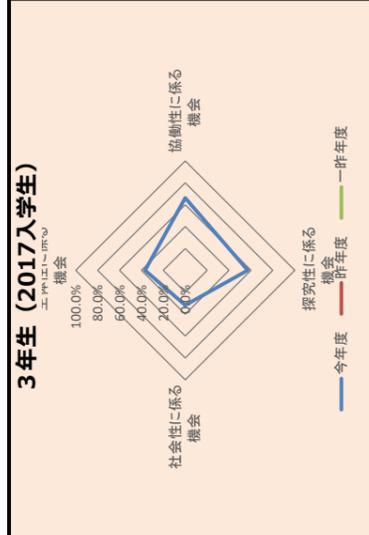
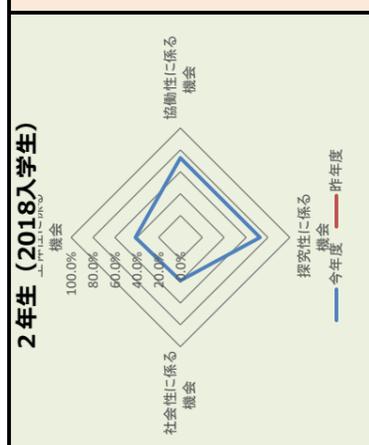
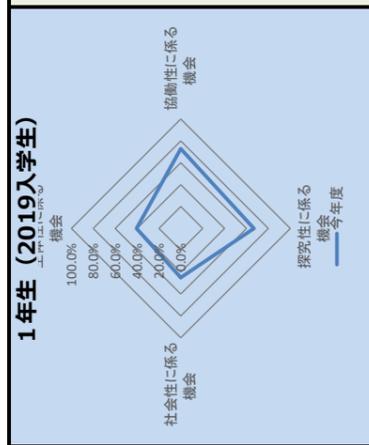
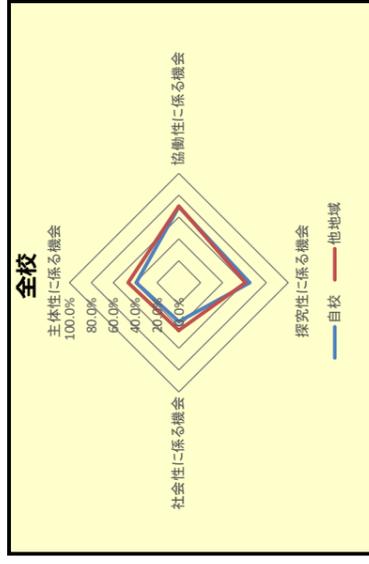
【社会貢献意識】

【特徴的な回答結果】

分類	特徴	ポイント	設問
昨年度に比べて	増加	-	地域をよりよくなるため、地域の問題に関わりたい
	減少	-	
学年に比べて	差が大	<b>13.04</b>	将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい
	差が小	<b>4.48</b>	18歳選挙権を取得したら、選挙に行くとと思う
他地域に比べて	高い	<b>5.36</b>	将来、自分の住んでいる地域で働きたいと思う
	低い	<b>-3.68</b>	

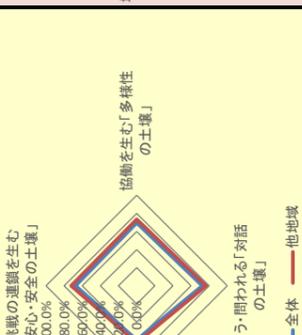
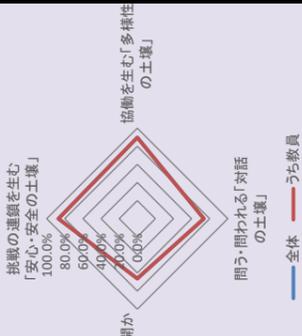
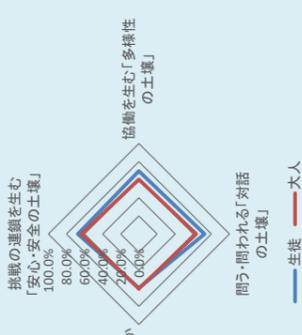
# 1. 生徒の学習活動の機会

	全校				1年生 (2019入学生)				2年生 (2018入学生)				3年生 (2017入学生)								
	割合(%)	昨年度比	学年間の差	他地域との差	学年	18入学生比	17入学生比	学年	学年	1年次比	1年次比	学年	学年	2年次比	2年次比	学年	学年	1年次比	1年次比	学年	学年
<b>主体性に係る機会</b>	38.9%	-	4.51	-7.43	2.22	40.5%	-	2.28	41.2%	-	2.31	36.7%	36.7%	-	-	2.14	2.14	-	-	2.38	2.38
自主的に調べものや取材を行う	51.2%	-	5.21	-7.02	2.45	53.8%	-	2.48	53.8%	-	2.53	48.6%	48.6%	-	-	2.38	2.38	-	-	1.90	1.90
学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	26.7%	-	3.81	-7.84	1.99	27.2%	-	2.08	28.6%	-	2.09	24.8%	24.8%	-	-	1.90	1.90	-	-	2.76	2.76
<b>協働性に係る機会</b>	69.4%	-	10.16	-0.60	2.88	72.8%	-	2.95	72.7%	-	2.99	66.2%	66.2%	-	-	2.76	2.76	-	-	2.94	2.94
グループで協力しながら学習や調べものを行う	85.1%	-	16.23	6.67	3.17	89.1%	-	3.24	93.3%	-	3.40	77.1%	77.1%	-	-	2.94	2.94	-	-	3.05	3.05
活動、学習内容について生徒同士で話し合う	84.7%	-	8.67	2.74	3.17	88.0%	-	3.25	89.0%	-	3.30	80.4%	80.4%	-	-	3.05	3.05	-	-	2.30	2.30
活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	38.4%	-	5.59	-11.22	2.29	41.3%	-	2.37	35.7%	-	2.28	41.1%	41.1%	-	-	2.30	2.30	-	-	2.57	2.57
<b>探究性に係る機会</b>	64.8%	-	15.76	3.86	2.76	66.7%	-	2.79	72.7%	-	2.95	57.0%	57.0%	-	-	2.39	2.39	-	-	2.65	2.65
自分の考えを文章や図表にまとめる	54.2%	-	16.24	-0.64	2.58	62.5%	-	2.70	62.4%	-	2.70	46.3%	46.3%	-	-	2.39	2.39	-	-	2.68	2.68
話し合った内容をまとめる	70.8%	-	23.04	2.10	2.90	76.1%	-	2.97	82.4%	-	2.97	59.3%	59.3%	-	-	2.65	2.65	-	-	2.56	2.56
活動、学習のまとめを発表する	72.2%	-	19.29	10.68	2.91	65.8%	-	2.79	81.9%	-	2.79	62.6%	62.6%	-	-	2.68	2.68	-	-	2.08	2.08
生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	62.0%	-	4.47	3.30	2.65	62.5%	-	2.70	64.3%	-	2.74	59.8%	59.8%	-	-	2.56	2.56	-	-	2.12	2.12
<b>社会性に係る機会</b>	35.6%	-	13.15	-8.01	2.18	44.9%	-	2.39	39.5%	-	2.28	31.8%	31.8%	-	-	2.08	2.08	-	-	2.12	2.12
地域の魅力や資源について考える	38.2%	-	9.91	-6.74	2.22	44.0%	-	2.39	42.4%	-	2.32	34.1%	34.1%	-	-	2.12	2.12	-	-	2.12	2.12
地域の課題の解決方法について考える	37.5%	-	9.91	-8.82	2.24	44.0%	-	2.39	41.0%	-	2.36	34.1%	34.1%	-	-	2.12	2.12	-	-	2.01	2.01
日本や世界の課題の解決方法について考える	31.1%	-	19.64	-8.47	2.09	46.7%	-	2.41	35.2%	-	2.17	27.1%	27.1%	-	-	2.01	2.01	-	-		



## 2. 地域の学習環境

	生徒の認識 (A)				大人の認識 (B)				大人の自己評価 (C)				生徒と大人の認識の差 (A-B)				
	生徒の認識 (A)		大人の認識 (B)		大人の認識 (B)		大人の自己評価 (C)		大人の自己評価 (C)		生徒と大人の認識の差 (A-B)		生徒と大人の認識の差 (A-B)				
	全体	他地域との差	全体	平均	全体	うち教員	割合 (%)	差 (pt)	全体	割合 (%)	全体	平均値	今年度	差 (pt)	昨年度	差 (pt)	変化量 (pt)
<b>挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」</b>	67.5%	-4.72	2.83	2.83	63.5%	63.5%	2.59	87.1%	87.1%	3.12	3.12	7.4pt	-	-	-	-	-
失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	65.6%	-7.80	2.75	2.75	64.7%	64.7%	2.53	88.2%	88.2%	2.94	2.94	0.9pt	-	-	-	-	-
挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	87.5%	-0.16	3.24	3.24	82.4%	82.4%	2.88	100.0%	100.0%	3.59	3.59	5.1pt	-	-	-	-	-
目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	71.9%	-4.46	2.94	2.94	64.7%	64.7%	2.71	88.2%	88.2%	3.06	3.06	7.2pt	-	-	-	-	-
地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	50.5%	-3.01	2.50	2.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	47.9%	-10.41	2.50	2.50	41.2%	41.2%	2.29	64.7%	64.7%	2.76	2.76	6.7pt	-	-	-	-	-
自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	81.6%	-2.50	3.05	3.05	64.7%	64.7%	2.53	94.1%	94.1%	3.24	3.24	16.9pt	-	-	-	-	-
<b>協働を生む「多様性の土壌」</b>	69.6%	-3.83	2.83	2.83	60.3%	60.3%	2.60	89.7%	89.7%	3.28	3.28	9.3pt	-	-	-	-	-
人と違つことが尊重される雰囲気がある	65.8%	-5.77	2.74	2.74	64.7%	64.7%	2.65	94.1%	94.1%	3.41	3.41	1.1pt	-	-	-	-	-
ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	70.4%	-5.37	2.81	2.81	52.9%	52.9%	2.53	88.2%	88.2%	3.29	3.29	17.5pt	-	-	-	-	-
自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	76.0%	-3.30	2.98	2.98	58.8%	58.8%	2.53	88.2%	88.2%	3.12	3.12	17.2pt	-	-	-	-	-
立場や役割を超えて協働する機会がある	66.1%	-0.87	2.78	2.78	64.7%	64.7%	2.71	88.2%	88.2%	3.29	3.29	1.4pt	-	-	-	-	-
<b>問う・問われる「対話の土壌」</b>	72.4%	-4.20	2.89	2.89	63.2%	63.2%	2.56	73.5%	73.5%	2.85	2.85	9.2pt	-	-	-	-	-
本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	75.3%	-4.48	2.93	2.93	41.2%	41.2%	2.24	52.9%	52.9%	2.59	2.59	34.2pt	-	-	-	-	-
将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	70.6%	-7.01	2.94	2.94	70.6%	70.6%	2.71	58.8%	58.8%	2.59	2.59	0.0pt	-	-	-	-	-
周りの大人は、じっくり話を聞き、考える手助けをしてくれる	76.6%	-4.30	2.94	2.94	70.6%	70.6%	2.59	100.0%	100.0%	3.24	3.24	6.1pt	-	-	-	-	-
お互いに問いかけあう機会がある	67.1%	-1.02	2.77	2.77	70.6%	70.6%	2.71	82.4%	82.4%	3.00	3.00	-3.5pt	-	-	-	-	-
<b>地域や社会に「開かれた土壌」</b>	59.7%	-3.28	2.67	2.67	60.3%	60.3%	2.53	66.2%	66.2%	2.79	2.79	-0.6pt	-	-	-	-	-
地域から大切にされている雰囲気を感じる	82.1%	6.29	3.06	3.06	58.8%	58.8%	2.53	64.7%	64.7%	3.00	3.00	23.2pt	-	-	-	-	-
興味を持ったことに対してすぐに橋渡ししてくれる大人がいる	57.1%	-10.25	2.61	2.61	52.9%	52.9%	2.41	76.5%	76.5%	2.88	2.88	4.1pt	-	-	-	-	-
地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	55.3%	-2.71	2.62	2.62	64.7%	64.7%	2.59	58.8%	58.8%	2.53	2.53	-9.4pt	-	-	-	-	-
自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	44.4%	-6.43	2.40	2.40	64.7%	64.7%	2.59	64.7%	64.7%	2.76	2.76	-20.3pt	-	-	-	-	-



### 3. 生徒の自己能力認識

	全校										1年生 (2019入学生)			2年生 (2018入学生)			3年生 (2017入学生)								
	全体		学年間の差		他地域との差		全体		学年		18入学生比		17入学生比		学年		1年次比		学年		1年次比		学年		
	割合(%)	差(pt)	最大差	差(pt)	平均	平均	割合(%)	差(pt)	平均値	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	割合(%)	差(pt)	平均値	
<b>主体性</b>	62.5%	7.34	-0.50	2.73	2.65	63.9%	2.79	2.66	59.2%	-	65.1%	-	2.79	2.66	63.3%	-	2.79	2.66	63.3%	-	2.79	2.66	63.3%	-	2.74
<b>【自己肯定感・自己有用感】</b>	58.6%	11.00	1.55	2.65	2.65	63.9%	-	2.73	52.9%	-	63.9%	-	2.73	2.57	59.8%	-	2.73	2.57	59.8%	-	2.73	2.57	59.8%	-	2.67
自分にはよところがあると思う	72.0%	9.90	3.60	2.91	2.91	76.1%	-	2.97	66.2%	-	76.1%	-	2.97	2.83	74.3%	-	2.97	2.83	74.3%	-	2.97	2.83	74.3%	-	2.94
私は、自分自身に満足している	45.2%	12.11	-0.50	2.39	2.39	51.6%	-	2.48	39.5%	-	51.6%	-	2.48	2.30	45.3%	-	2.48	2.30	45.3%	-	2.48	2.30	45.3%	-	2.40
<b>【課題設定力】</b>	61.7%	7.80	-2.73	2.72	2.72	62.0%	-	2.76	57.6%	-	62.0%	-	2.76	2.65	65.4%	-	2.76	2.65	65.4%	-	2.76	2.65	65.4%	-	2.75
現状分析し、目的や課題を明らかにすることができる	61.7%	7.80	-2.73	2.72	2.72	62.0%	-	2.76	57.6%	-	62.0%	-	2.76	2.65	65.4%	-	2.76	2.65	65.4%	-	2.76	2.65	65.4%	-	2.75
<b>【行動力】</b>	57.4%	5.07	-0.50	2.63	2.63	59.8%	-	2.70	56.4%	-	59.8%	-	2.70	2.59	56.3%	-	2.70	2.59	56.3%	-	2.70	2.59	56.3%	-	2.61
目標を設定し、確実に行動することができる	56.9%	6.52	-0.26	2.63	2.63	60.3%	-	2.74	53.8%	-	60.3%	-	2.74	2.55	57.0%	-	2.74	2.55	57.0%	-	2.74	2.55	57.0%	-	2.62
自分で計画を立てて活動することができる	57.9%	3.63	-0.75	2.62	2.62	59.2%	-	2.66	59.0%	-	59.2%	-	2.66	2.62	55.6%	-	2.66	2.62	55.6%	-	2.66	2.62	55.6%	-	2.59
<b>【粘り強さ】</b>	72.1%	5.48	-0.33	2.91	2.91	75.0%	-	2.96	70.0%	-	75.0%	-	2.96	2.83	71.7%	-	2.96	2.83	71.7%	-	2.96	2.83	71.7%	-	2.93
うまくいか分らないにも意欲的に取り組む	77.0%	3.10	0.84	2.98	2.98	78.8%	-	3.04	76.7%	-	78.8%	-	3.04	2.92	75.7%	-	3.04	2.92	75.7%	-	3.04	2.92	75.7%	-	2.97
忍耐強く物事に取り組みることができる	67.3%	7.86	-1.51	2.84	2.84	71.2%	-	2.89	63.3%	-	71.2%	-	2.89	2.74	67.8%	-	2.89	2.74	67.8%	-	2.89	2.74	67.8%	-	2.89
<b>協働性</b>	72.6%	8.72	-1.49	2.94	2.94	77.8%	-	3.05	69.8%	-	77.8%	-	3.05	2.90	71.0%	-	3.05	2.90	71.0%	-	3.05	2.90	71.0%	-	2.90
<b>【受容力】</b>	88.2%	5.40	0.41	3.21	3.21	91.8%	-	3.31	86.7%	-	91.8%	-	3.31	3.17	86.4%	-	3.31	3.17	86.4%	-	3.31	3.17	86.4%	-	3.16
自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	88.2%	5.40	0.41	3.21	3.21	91.8%	-	3.31	86.7%	-	91.8%	-	3.31	3.17	86.4%	-	3.31	3.17	86.4%	-	3.31	3.17	86.4%	-	3.16
<b>【対話力】</b>	84.7%	4.64	-0.70	3.20	3.20	87.5%	-	3.29	82.9%	-	87.5%	-	3.29	3.14	84.1%	-	3.29	3.14	84.1%	-	3.29	3.14	84.1%	-	3.18
相手の意見を丁寧に聞くことができる	84.7%	4.64	-0.70	3.20	3.20	87.5%	-	3.29	82.9%	-	87.5%	-	3.29	3.14	84.1%	-	3.29	3.14	84.1%	-	3.29	3.14	84.1%	-	3.18
<b>【表現力】</b>	55.8%	11.52	-1.93	2.65	2.65	62.8%	-	2.79	53.8%	-	62.8%	-	2.79	2.63	51.9%	-	2.79	2.63	51.9%	-	2.79	2.63	51.9%	-	2.56
自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	61.5%	8.28	-2.55	2.75	2.75	66.8%	-	2.85	58.6%	-	66.8%	-	2.85	2.72	59.8%	-	2.85	2.72	59.8%	-	2.85	2.72	59.8%	-	2.69
友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	50.2%	14.77	-1.32	2.56	2.56	58.7%	-	2.73	49.0%	-	58.7%	-	2.73	2.54	43.9%	-	2.73	2.54	43.9%	-	2.73	2.54	43.9%	-	2.43
<b>【共創力】</b>	61.8%	13.31	-3.72	2.72	2.72	69.0%	-	2.80	55.7%	-	69.0%	-	2.80	2.66	61.7%	-	2.80	2.66	61.7%	-	2.80	2.66	61.7%	-	2.70
共同作業だと、自分の力が発揮できる	61.8%	13.31	-3.72	2.72	2.72	69.0%	-	2.80	55.7%	-	69.0%	-	2.80	2.66	61.7%	-	2.80	2.66	61.7%	-	2.80	2.66	61.7%	-	2.70
<b>探究性</b>	56.2%	9.04	-3.07	2.64	2.64	59.6%	-	2.72	54.1%	-	59.6%	-	2.72	2.59	55.3%	-	2.72	2.59	55.3%	-	2.72	2.59	55.3%	-	2.62
<b>【学びの意欲】</b>	62.2%	10.56	1.01	2.73	2.73	63.4%	-	2.76	59.8%	-	63.4%	-	2.76	2.69	63.6%	-	2.76	2.69	63.6%	-	2.76	2.69	63.6%	-	2.74
家で家で、誰かに言われなくても自分から勉強する	72.2%	11.58	11.37	2.93	2.93	67.4%	-	2.82	69.5%	-	67.4%	-	2.82	2.89	79.0%	-	2.82	2.89	79.0%	-	2.82	2.89	79.0%	-	3.07
地域を対象としたPBLに熱心に取り組んでいる	42.8%	12.00	-4.53	2.37	2.37	48.9%	-	2.51	43.3%	-	48.9%	-	2.51	2.41	36.9%	-	2.51	2.41	36.9%	-	2.51	2.41	36.9%	-	2.21
学習を通じて、自分がしたいことが増えている	71.7%	8.10	-3.83	2.89	2.89	73.9%	-	2.96	66.7%	-	73.9%	-	2.96	2.76	74.8%	-	2.96	2.76	74.8%	-	2.96	2.76	74.8%	-	2.95
<b>【情報活用能力】</b>	58.0%	8.21	-7.77	2.69	2.69	62.5%	-	2.77	54.3%	-	62.5%	-	2.77	2.64	57.7%	-	2.77	2.64	57.7%	-	2.77	2.64	57.7%	-	2.66
情報を、勉強したこと関連づけて理解できる	67.3%	4.33	-4.93	2.82	2.82	69.6%	-	2.88	65.2%	-	69.6%	-	2.88	2.80	67.3%	-	2.88	2.80	67.3%	-	2.88	2.80	67.3%	-	2.80
勉強したものを実際に応用してみる	48.7%	12.10	-10.62	2.55	2.55	55.4%	-	2.67	43.3%	-	55.4%	-	2.67	2.48	48.1%	-	2.67	2.48	48.1%	-	2.67	2.48	48.1%	-	2.52
<b>【批判的思考力】</b>	36.7%	11.01	-4.21	2.33	2.33	41.8%	-	2.47	38.1%	-	41.8%	-	2.47	2.28	30.8%	-	2.47	2.28	30.8%	-	2.47	2.28	30.8%	-	2.27
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	36.7%	11.01	-4.21	2.33	2.33	41.8%	-	2.47	38.1%	-	41.8%	-	2.47	2.28	30.8%	-	2.47	2.28	30.8%	-	2.47	2.28	30.8%	-	2.27
<b>【省察力】</b>	67.9%	6.37	-1.30	2.81	2.81	70.7%	-	2.85	64.3%	-	70.7%	-	2.85	2.77	69.2%	-	2.85	2.77	69.2%	-	2.85	2.77	69.2%	-	2.82
自分を客観的に理解することができる	67.9%	6.37	-1.30	2.81	2.81	70.7%	-	2.85	64.3%	-	70.7%	-	2.85	2.77	69.2%	-	2.85	2.77	69.2%	-	2.85	2.77	69.2%	-	2.82
<b>社会性</b>	59.1%	8.25	0.39	2.69	2.69	62.4%	-	2.75	57.1%	-	62.4%	-	2.75	2.65	58.3%	-	2.75	2.65	58.3%	-	2.75	2.65	58.3%	-	2.67
<b>【地域貢献意識】</b>	54.7%	8.06	0.82	2.58	2.58	59.1%	-	2.68	51.1%	-	59.1%	-	2.68	2.52	54.5%	-	2.68	2.52	54.5%	-	2.68	2.52	54.5%	-	2.56
国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい	38.5%	5.59	-1.77	2.33	2.33	41.3%	-	2.43	35.7%	-	41.3%	-	2.43	2.28	38.8%	-	2.43	2.28	38.8%	-	2.43	2.28	38.8%	-	2.30
地域をよりよくなるため、地域の問題に関わりたい	56.6%	13.04	-0.08	2.63	2.63	63.0%	-	2.73	50.0%	-	63.0%	-	2.73	2.53	57.5%	-	2.73	2.53	57.5%	-	2.73	2.53	57.5%	-	2.63
将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	69.1%	5.54	4.32	2.78	2.78	72.8%	-	2.87	67.6%	-	72.8%	-	2.87	2.74	67.3%	-	2.87	2.74	67.3%	-	2.87	2.74	67.3%	-	2.75
<b>【社会参画意識】</b>	62.7%	8.39	1.36	2.80	2.80	66.7%	-	2.89	60.0%	-	66.7%	-	2.89	2.75	62.0%	-	2.89	2.75	62.0%	-	2.89	2.75	62.0%	-	2.78
私に関わることで、社会状況が変えられると思う	43.6%	8.57	1.41	2.39	2.39	47.8%	-	2.48	44.3%	-	47.8%	-	2.48	2.36	39.3%	-	2.48	2.36	39.3%	-	2.48	2.36	39.3%	-	2.33
地域や社会での問題やできごとに関心がある	62.8%	8.74	-2.69	2.75	2.75	65.8%	-	2.85	57.1%	-	65.8%	-	2.85	2.66	65.9%	-	2.85	2.66	65.9%	-	2.85	2.66	65.9%	-	2.76
18歳選挙権を取得したら、選挙に行こう	81.7%	7.84	5.36	3.26	3.26	86.4%	-	3.34	78.6%	-	86.4%	-	3.34	3.22	80.8%	-	3.34	3.22	80.8%	-	3.34	3.22	80.8%	-	3.24
<b>【グローバル意識】</b>	56.0%	7.42	-1.80	2.63	2.63	56.0%	-	2.64	56.2%	-	56.0%	-	2.64	2.63	55.8%	-	2.64	2.63	55.8%	-	2.64	2.63	55.8%	-	2.62
地域の課題と世界での課題は関連していると思う	58.9%	10.05	-2.02	2.65	2.65	65.8%	-	2.76	55.7%	-	65.8%	-	2.76	2.58	56.1%	-	2.76	2.58	56.1%	-	2.76	2.58	56.1%	-	2.62
将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	67.3%	4.48	0.30	2.86	2.86	64.7%	-	2.83	67.6%	-	64.7%	-	2.83	2.85	69.2%	-	2.83	2.85	69.2%	-	2.83	2.85	69.2%	-	2.88
将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	41.8%	7.74	-3.68	2.39	2.39	37.5%	-	2.33	45.2%	-	37.5%	-	2.33	2.46	42.1%	-	2.33	2.46	42.1%	-	2.33	2.46	42.1%	-	2.37
<b>【持続可能意識】</b>	63.2%	9.12	1.18	2.73	2.73	67.9%	-	2.79	61.2%	-	67.9%	-	2.79	2.70	61.0%	-	2.79	2.70	61.0%						

#### 4. 生徒の行動実績

	全校				1年生 (2019入学生)				2年生 (2018入学生)				3年生 (2017入学生)						
	主体性に係る行動		他地域との差		18入学生比		17入学生比		学年		学年		学年		学年				
	割合(%)	差(pt)	最大差 (pt)	平均	割合(%)	差(pt)	割合(%)	平均値	割合(%)	1年次比	差(pt)	割合(%)	平均値	割合(%)	2年次比	差(pt)	割合(%)	平均値	
<b>主体性に係る行動</b>	62.6%	-	7.35	2.77	64.4%	-	2.83	65.2%	-	2.81	60.0%	-	2.74	60.0%	-	2.74	60.0%	-	2.74
授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	71.5%	-	7.08	2.96	77.2%	-	3.10	72.9%	-	2.98	70.1%	-	2.94	70.1%	-	2.94	70.1%	-	2.94
授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	53.8%	-	7.62	2.58	51.6%	-	2.57	57.6%	-	2.64	50.0%	-	2.53	50.0%	-	2.53	50.0%	-	2.53
<b>協働性に係る行動</b>	65.4%	-	7.72	2.80	68.5%	-	2.82	66.4%	-	2.82	64.5%	-	2.77	64.5%	-	2.77	64.5%	-	2.77
自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	62.0%	-	11.08	2.74	69.0%	-	2.82	66.2%	-	2.80	57.9%	-	2.68	57.9%	-	2.68	57.9%	-	2.68
友人などから、意見やアドバイスを求められた	68.9%	-	4.36	2.86	67.9%	-	2.82	66.7%	-	2.84	71.0%	-	2.87	71.0%	-	2.87	71.0%	-	2.87
<b>探究性に係る行動</b>	55.2%	-	4.63	2.60	57.9%	-	2.67	54.8%	-	2.57	55.6%	-	2.63	55.6%	-	2.63	55.6%	-	2.63
授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした	59.7%	-	2.13	2.70	58.2%	-	2.70	59.0%	-	2.67	60.3%	-	2.74	60.3%	-	2.74	60.3%	-	2.74
公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした	50.7%	-	7.13	2.50	57.6%	-	2.65	50.5%	-	2.48	50.9%	-	2.52	50.9%	-	2.52	50.9%	-	2.52
<b>社会性に係る行動</b>	52.5%	-	10.73	2.51	48.6%	-	2.43	50.5%	-	2.48	54.5%	-	2.55	54.5%	-	2.55	54.5%	-	2.55
いま住んでいる地域の行事に参加した	47.4%	-	6.23	2.38	51.1%	-	2.47	50.0%	-	2.45	44.9%	-	2.32	44.9%	-	2.32	44.9%	-	2.32
地域社会などでボランティア活動に参加した	46.9%	-	17.71	2.37	33.7%	-	2.05	42.4%	-	2.26	51.4%	-	2.47	51.4%	-	2.47	51.4%	-	2.47
先生、保護者以外の地域の大人と、なげない会話を交わした	63.2%	-	8.24	2.79	60.9%	-	2.77	59.0%	-	2.73	67.3%	-	2.86	67.3%	-	2.86	67.3%	-	2.86

#### 5. 満足度

	全校				1年生 (2019入学生)				2年生 (2018入学生)				3年生 (2017入学生)						
	主体性に係る行動		他地域との差		18入学生比		17入学生比		学年		学年		学年		学年				
	割合(%)	差(pt)	最大差 (pt)	平均	割合(%)	差(pt)	割合(%)	平均値	割合(%)	1年次比	差(pt)	割合(%)	平均値	割合(%)	2年次比	差(pt)	割合(%)	平均値	
今の生活全般に対する満足度	72.0%	-	9.42	6.32	76.1%	-	6.57	66.7%	-	6.13	73.8%	-	6.28	73.8%	-	6.28	73.8%	-	6.28
この学校に入ってよかったと思う	82.9%	-	9.77	3.12	84.8%	-	3.21	77.1%	-	2.92	86.9%	-	3.23	86.9%	-	3.23	86.9%	-	3.23

総合 I についての自己評価・意識調査

この調査は、一年間の「総合 I」の時間を通じて、皆さんがどのような力を身に付けたと感じているか、また、その活動内容についてどう考えているかについて調べるものです。  
自己評価の項目は通知表や調査書に記載する所見の参考資料とします。  
活動内容については、今後の「総合的な探究の時間」をどう進めるかの参考資料にします。

1 <自己評価>

あなたは今年度の「総合 I」の時間を通じて、それぞれの力がどの程度ついたと感じていますか。  
以下の4つの項目をマークしてください。

1 力がついた 2 ある程度ついた 3 あまりついていない 4 ついていない

(1) 「柏原高校の歴史」(プリント精読, ポスター作成, プレゼン) について

- |         |   |   |   |   |
|---------|---|---|---|---|
| 1 聴く力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2 読む力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3 考える力  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4 伝える力  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 発表する力 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(2) 「丹波人物伝」(夏休みのインタビュ、ポスター作成、プレゼン) について

- |          |   |   |   |   |
|----------|---|---|---|---|
| 6 聴く力    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7 読む力    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8 考える力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9 伝える力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10 発表する力 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(3) 「生き方プレゼン」(Happy Set, ライフライン, プレゼン, 小論文) について

- |          |   |   |   |   |
|----------|---|---|---|---|
| 11 聴く力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12 読む力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13 考える力  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14 伝える力  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 15 発表する力 | 1 | 2 | 3 | 4 |

2 <「総合 I」の内容・活動についての意識>

(1)

「総合 I」で学習した内容や取り組みだ活動について、どのように感じていますか。

以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 とても良かった 2 ある程度良かった 3 あまり良くなかった 4 良くなかった

- |                    |   |   |   |   |
|--------------------|---|---|---|---|
| 16 「柏原高校の歴史」プリント精読 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 17 身近な人へのインタビュ活動   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 18 鴻谷佳彦さんの講演会      | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19 自分の生き方を考える活動    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 20 プレゼンテーション       | 1 | 2 | 3 | 4 |

(2)

「総合 I」の時間を通じて、以下のどの項目ができる(ようになった)と感じていますか。

以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 できる 2 ある程度できる 3 あまりできない 4 できない

- |                                   |   |   |   |   |
|-----------------------------------|---|---|---|---|
| 21 主体的に調べものや取材を行う                 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 22 学校外の色々な人たちに話を聴きに行く             | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 23 グループで協力しながら学習や調べものを行う          | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 24 活動, 学習内容について友だちと話し合う           | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 25 活動, 学習内容について大人(教員, 地域)と話し合う    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 26 自分の考えを文章や図表にまとめる               | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 27 話し合った内容をまとめる                   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 28 活動, 学習内容を発表する                  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 29 生徒同士で活動, 学習した内容の振り返りを行う        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 30 地域の魅力や資源について考える                | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 31 地域の課題の解決方法について考える              | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 32 日本や世界の課題の解決方法について考える           | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 33 授業で分からない事を, 自分から質問し, わかる人に聞く   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 34 授業で興味・関心を持った内容について, 自主的に調べる    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 35 自分の考えについて, 様々な人に意見やアドバイスを求める   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 36 友人などから, 意見やアドバイスを求められて共に考える    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 37 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って, 考えて, 調べる | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 38 公式や決まりを習う時, その根拠を自分で考えたり調べたりする | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 39 今住んでいる地域の行事に参加する               | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 40 地域社会などでボランティア活動に参加する           | 1 | 2 | 3 | 4 |

3<自己能力についての認識>

現在の自分の能力や性質についてどのように感じていますか。  
以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 あてはまる 2 ある程度あてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない

- 41 現状分析し、目的や課題を明らかにすることができる 1 2 3 4
- 42 自分で計画を立てて活動することができる 1 2 3 4
- 43 うまくいくかわからないことも意欲的に取り組むことができる 1 2 3 4
- 44 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる 1 2 3 4
- 45 相手の意見を丁寧に聴くことができる 1 2 3 4
- 46 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる 1 2 3 4
- 47 友達の前で発表することは得意である 1 2 3 4
- 48 共同作業で自分の力が発揮できる 1 2 3 4
- 49 家で、自主的に学習することができる 1 2 3 4
- 50 教科書外で得た情報を、勉強したことで関連付けて理解できる 1 2 3 4
- 51 勉強したものを実際に応用してみることができる 1 2 3 4
- 52 複雑な問題を順序だてて考えることが得意である 1 2 3 4
- 53 自分を客観的に理解することができる 1 2 3 4
- 54 国や地域の担い手として、政策決定に携わりたい 1 2 3 4
- 55 地域をよりよくするため、地域の問題にかかわりたい 1 2 3 4
- 56 将来、自分の住んでいる地域の役に立ちたい 1 2 3 4
- 57 自分が関わること社会は変えられると思っている 1 2 3 4
- 58 社会の出来事に関心がある 1 2 3 4
- 59 選挙権を得たら、投票に行く 1 2 3 4
- 60 地域の課題と世界の課題は関連していると思う 1 2 3 4
- 61 将来、見知らぬ土地でチャレンジしたい 1 2 3 4
- 62 将来、自分の今住んでいる地域で働きたい 1 2 3 4
- 63 地域文化や暮らしを自分の手で未来に伝えたい 1 2 3 4
- 64 自分の将来について明るい希望を持っている 1 2 3 4
- 65 自分には良いところがある 1 2 3 4
- 66 今の自分に満足している 1 2 3 4
- 67 柏原高校に来てよかったと思っている 1 2 3 4

4<地域の学習環境について意識>

自分たちが住んでいる地域についてどのように感じていますか。  
以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 あてはまる 2 ある程度あてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない

- 68 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある 1 2 3 4
- 69 挑戦する人に対して応援する雰囲気がある 1 2 3 4
- 70 目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる 1 2 3 4
- 71 地域に尊敬する・あこがれている大人がいる 1 2 3 4
- 72 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある 1 2 3 4
- 73 自分が挑戦しようと思った時、周囲は応援してくれる 1 2 3 4
- 74 人と違うことが尊重される雰囲気がある 1 2 3 4
- 75 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある 1 2 3 4
- 76 自分と異なる立場、役割を持つ人とのかかわりがある 1 2 3 4
- 77 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる 1 2 3 4

5<総合的な学習の時間全般に関して>

総合的な学習全般について、難しかったことや困ったこと、うまくいったことなど自由に書いてください。  
(マークシートに記述すること)

総合IIIについての自己評価・意識調査

この調査は、一年間の「総合II」の時間を通じて、皆さんがどのような力を身に付けたと感じているか、また、その活動内容についてどう考えているかについて調べています。  
 自己評価の項目は通知表や調査書に記載する所見の参考資料とします。  
 活動内容については、今後の「総合的な探究の時間」をどう進めるかの参考資料にします。

1) <自己評価>

あなたは今年度の「総合II」の時間を通じて、それぞれの力がどの程度ついたと感じていますか。  
 以下の4つの項目をマークしてください。  
 1 力がついた 2 ある程度ついた 3 あまりついていない 4 ついていない

(1) 「台湾とは何か」(講話、夏休みの課題、プレゼン、著者・野嶋剛さんの講演) について

- 1 聴く力 1 2 3 4
- 2 読む力 1 2 3 4
- 3 考える力 1 2 3 4
- 4 伝える力 1 2 3 4
- 5 発表する力 1 2 3 4

(2) 後藤みなみさんの講演会(事前の質問作成を含む) について

- 6 聴く力 1 2 3 4
- 7 読む力 1 2 3 4
- 8 考える力 1 2 3 4
- 9 伝える力 1 2 3 4
- 10 発表する力 1 2 3 4

(3) 修学旅行を通じた学習(事前学習、フィールドワーク、プレゼン) について

- 11 聴く力 1 2 3 4
- 12 読む力 1 2 3 4
- 13 考える力 1 2 3 4
- 14 伝える力 1 2 3 4
- 15 発表する力 1 2 3 4

2) <「総合II」の内容・活動についての意識>

(1)

「総合II」で学習した内容や取り組みが活動について、どのように感じていますか。  
 以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。  
 1 とても良かった 2 ある程度良かった 3 あまり良くなかった 4 良くなかった

- 16 「台湾とは何か」講話 1 2 3 4
- 17 後藤みなみさんの講演会 1 2 3 4
- 18 野嶋剛さんの講演会 1 2 3 4
- 19 修学旅行の事前学習 1 2 3 4
- 20 プレゼンテーション 1 2 3 4

(2)

「総合II」の時間を通じて、以下のどの項目ができる(ようになった)と感じていますか。  
 以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。  
 1 できる 2 ある程度できる 3 あまりできない 4 できない

- 21 主体的に調べものや取材を行う 1 2 3 4
- 22 学校外の色々な人たちに話を聴きに行く 1 2 3 4
- 23 グループで協力しながら学習や調べものを行う 1 2 3 4
- 24 活動、学習内容について友だちと話し合う 1 2 3 4
- 25 活動、学習内容について大人(教員、地域)と話し合う 1 2 3 4
- 26 自分の考えを文章や図表にまとめる 1 2 3 4
- 27 話し合った内容をまとめる 1 2 3 4
- 28 活動、学習内容を発表する 1 2 3 4
- 29 生徒同士で活動、学習した内容の振り返りを行う 1 2 3 4
- 30 地域の魅力や資源について考える 1 2 3 4
- 31 地域の課題の解決方法について考える 1 2 3 4
- 32 日本や世界の課題の解決方法について考える 1 2 3 4
- 33 授業で分からない事を、自分から質問し、わかる人に聞く 1 2 3 4
- 34 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べる 1 2 3 4
- 35 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求める 1 2 3 4
- 36 友人などから、意見やアドバイスを求められて共に考える 1 2 3 4
- 37 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えて、調べる 1 2 3 4
- 38 公式や決まりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりする 1 2 3 4
- 39 今住んでいる地域の行事に参加する 1 2 3 4
- 40 地域社会などでボランティア活動に参加する 1 2 3 4

3<自己能力についての認識>

現在の自分の能力や性質についてどのように感じていますか。

以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 あてはまる 2 ある程度あてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない

- 41 現状分析し、目的や課題を明らかにすることができる 1 2 3 4
- 42 自分で計画を立てて活動することができる 1 2 3 4
- 43 うまくいくかわからないことも意欲的に取り組むことができる 1 2 3 4
- 44 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる 1 2 3 4
- 45 相手の意見を丁寧に聴くことができる 1 2 3 4
- 46 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる 1 2 3 4
- 47 友達の前で発表することは得意である 1 2 3 4
- 48 共同作業で自分の力が発揮できる 1 2 3 4
- 49 家で、自主的に学習することができる 1 2 3 4
- 50 教科書外で得た情報を、勉強したことで関連付けて理解できる 1 2 3 4
- 51 勉強したものを実際に応用してみることができる 1 2 3 4
- 52 複雑な問題を順序だてて考えることが得意である 1 2 3 4
- 53 自分を客観的に理解することができる 1 2 3 4
- 54 国や地域の担い手として、政策決定に携わりたい 1 2 3 4
- 55 地域をよりよくするため、地域の問題にかかわりたい 1 2 3 4
- 56 将来、自分の住んでいる地域の役に立ちたい 1 2 3 4
- 57 自分が関わることで社会は変えられると思っている 1 2 3 4
- 58 社会の出来事に関心がある 1 2 3 4
- 59 選挙権を得たら、投票に行く 1 2 3 4
- 60 地域の課題と世界の課題は関連していると思う 1 2 3 4
- 61 将来、見知らぬ土地でチャレンジしたい 1 2 3 4
- 62 将来、自分の今住んでいる地域で働きたい 1 2 3 4
- 63 地域文化や暮らしを自分の手で未来に伝えたい 1 2 3 4
- 64 自分の将来について明るい希望を持っている 1 2 3 4
- 65 自分には良いところがある 1 2 3 4
- 66 今の自分に満足している 1 2 3 4
- 67 柏原高校に来てよかったと思っている 1 2 3 4

4<地域の学習環境について意識>

自分たちが住んでいる地域についてどのように感じていますか。

以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 あてはまる 2 ある程度あてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない

- 68 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある 1 2 3 4
- 69 挑戦する人に対して応援する雰囲気がある 1 2 3 4
- 70 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある 1 2 3 4
- 71 地域に尊敬する・あこがれている大人がいる 1 2 3 4
- 72 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある 1 2 3 4
- 73 自分が挑戦しようと思った時、周囲は応援してくれる 1 2 3 4
- 74 人と違うことが尊重される雰囲気がある 1 2 3 4
- 75 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある 1 2 3 4
- 76 自分と異なる立場、役割を持つ人とのかかわりがある 1 2 3 4
- 77 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる 1 2 3 4

5<総合的な学習の時間全般に関して>

総合的授業全般について、難しかったことや困ったこと、うまくいったことなど自由に書いてください。

(マークシートに記述すること)

探究 I についての自己評価・意識調査

この調査は、一年間の「探究 I」の時間を通じて、皆さんがどのような力を身に付けたと感じているか、また、その活動内容についてどう考えているかについて調べています。

自己評価の項目は、通知表や調査書に記載する所見の参考資料とします。

活動内容については、今後の「総合的な探究の時間」をどう進めるかの参考資料にします。

1 <自己評価>

あなたは今年度の「探究 I」の時間を通じて、それぞれの力がどの程度身についたと感じていますか。  
以下の4つの項目をマークしてください。

1 力がついた 2 ある程度ついた 3 あまりついていない 4 ついていない

(1) 「地域課題に関する各自の研究」(調べ学習・プレゼン) について

- 1 聴く力 1 2 3 4
- 2 読む力 1 2 3 4
- 3 考える力 1 2 3 4
- 4 伝える力 1 2 3 4
- 5 発表する力 1 2 3 4

(2) 「課題研究の進め方に関する学習」(高畑由起夫先生の講義・Start book) について

- 6 聴く力 1 2 3 4
- 7 読む力 1 2 3 4
- 8 考える力 1 2 3 4
- 9 伝える力 1 2 3 4
- 10 発表する力 1 2 3 4

(3) 「校外での課題研究活動」(フィールドワーク・各種発表会参加、見学) について

- 11 聴く力 1 2 3 4
- 12 読む力 1 2 3 4
- 13 考える力 1 2 3 4
- 14 伝える力 1 2 3 4
- 15 発表する力 1 2 3 4

2 <内容・活動についての意識>

(1)

「探究 I」で学習した内容や取り組んだ活動について、どのように感じていますか。  
以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 とても良かった 2 ある程度良かった 3 あまり良くなかった 4 良くなかった

- 16 各自が自分のテーマを持って取り組んだ地域課題解決学習 1 2 3 4
- 17 「課題研究メソッド Start book」を用いた手法学習 1 2 3 4
- 18 専門家や地域の方々を訪問・インタビュー活動 1 2 3 4
- 19 鴻谷佳彦さんの講演会 1 2 3 4
- 20 中間発表などのプレゼンテーション 1 2 3 4

(2)

「探究 I」の時間を通じて、以下のどの項目ができる(ようになった)と感じていますか。  
以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 できる 2 ある程度できる 3 あまりできない 4 できない

- 21 主体的に調べものや取材を行う 1 2 3 4
- 22 学校外の色々な人たちに話を聴きに行く 1 2 3 4
- 23 グループで協力しながら学習や調べものを行う 1 2 3 4
- 24 活動、学習内容について友だちと話し合う 1 2 3 4
- 25 活動、学習内容について大人(教員、地域)と話し合う 1 2 3 4
- 26 自分の考えを文章や図表にまとめる 1 2 3 4
- 27 話し合った内容をまとめる 1 2 3 4
- 28 活動、学習内容を発表する 1 2 3 4
- 29 生徒同士で活動、学習した内容の振り返りを行う 1 2 3 4
- 30 地域の魅力や資源について考える 1 2 3 4
- 31 地域の課題の解決方法について考える 1 2 3 4
- 32 日本や世界の課題の解決方法について考える 1 2 3 4
- 33 授業で分からない事を、自分から質問し、わかる人に聞く 1 2 3 4
- 34 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べる 1 2 3 4
- 35 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求める 1 2 3 4
- 36 友人などから、意見やアドバイスを求められて共に考える 1 2 3 4
- 37 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えて、調べる 1 2 3 4
- 38 公式や決まりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりする 1 2 3 4
- 39 今住んでいる地域の行事に参加する 1 2 3 4
- 40 地域社会などでボランティア活動に参加する 1 2 3 4

3 <自己能力についての認識>

現在の自分の能力や性質についてどのように感じていますか。  
以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 あてはまる 2 ある程度あてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない

- 41 現状分析し、目的や課題を明らかにすることができる 1 2 3 4
- 42 自分で計画を立てて活動することができる 1 2 3 4
- 43 うまくいくかわからないことも意欲的に取り組むことができる 1 2 3 4
- 44 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる 1 2 3 4
- 45 相手の意見を丁寧に聴くことができる 1 2 3 4
- 46 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる 1 2 3 4
- 47 友達の前で発表することは得意である 1 2 3 4
- 48 共同作業で自分の力が発揮できる 1 2 3 4
- 49 家で、自主的に学習することができる 1 2 3 4
- 50 教科書外で得た情報を、勉強したことに関連付けて理解できる 1 2 3 4
- 51 勉強したものを実際に応用してみることができる 1 2 3 4
- 52 複雑な問題を順序だてて考えることが得意である 1 2 3 4
- 53 自分を客観的に理解することができる 1 2 3 4
- 54 国や地域の担い手として、政策決定に携わりたい 1 2 3 4
- 55 地域をよりよくするため、地域の問題にかかわりたい 1 2 3 4
- 56 将来、自分の住んでいる地域の役に立ちたい 1 2 3 4
- 57 自分が関わることで社会は変えられると思っている 1 2 3 4
- 58 社会の出来事に関心がある 1 2 3 4
- 59 選挙権を得たら、投票に行く 1 2 3 4
- 60 地域の課題と世界の課題は関連していると思う 1 2 3 4
- 61 将来、見知らぬ土地でチャレンジしたい 1 2 3 4
- 62 将来、自分の今住んでいる地域で働きたい 1 2 3 4
- 63 地域文化や暮らしを自分の手で未来に伝えたい 1 2 3 4
- 64 自分の将来について明るい希望を持っている 1 2 3 4
- 65 自分には良いところがある 1 2 3 4
- 66 今の自分に満足している 1 2 3 4
- 67 柏原高校に来てよかったと思っている 1 2 3 4

4 <地域の学習環境について意識>

自分たちが住んでいる地域についてどのように感じていますか。  
以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 あてはまる 2 ある程度あてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない

- 68 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある 1 2 3 4
- 69 挑戦する人に対して応援する雰囲気がある 1 2 3 4
- 70 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある 1 2 3 4
- 71 地域に尊敬する・あこがれている大人がいる 1 2 3 4
- 72 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある 1 2 3 4
- 73 自分が挑戦しようと思った時、周囲は応援してくれる 1 2 3 4
- 74 人と違うことが尊重される雰囲気がある 1 2 3 4
- 75 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある 1 2 3 4
- 76 自分と異なる立場、役割を持つ人とのかわりがある 1 2 3 4
- 77 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる 1 2 3 4

5 <探究活動全般に関して>

探究活動全般について、難しかったことや困ったこと、うまくいったことなど自由に書いてください。  
(マークシートに記述すること)

探究Ⅱについての自己評価・意識調査

この調査は、一年間の「探究Ⅱ」の時間を通じて、皆さんがどのような力を身に付けたと感じているか、また、その活動内容についてどう考えているかについて調べるものです。  
自己評価の項目は通知表や調査書に記載する所見の参考資料とします。  
活動内容については、今後の「総合的な探究の時間」をどう進めるかの参考資料にします。

1 <自己評価>

あなたは今年度の「探究Ⅱ」の時間を通じて、それぞれの力がどの程度身についたと感じていますか。

以下の4つの項目をマークしてください。

1 力がついた 2 ある程度ついた 3 あまりついていない 4 ついていない

(1) 「地域課題に関する各自の研究」(調べ学習・プレゼン)について

- |         |   |   |   |   |
|---------|---|---|---|---|
| 1 聴く力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 2 読む力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 3 考える力  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 4 伝える力  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 5 発表する力 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(2) 「課題研究の進め方に関する学習」(高畑由起夫先生の講義・課題研究メソッド)について

- |          |   |   |   |   |
|----------|---|---|---|---|
| 6 聴く力    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 7 読む力    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 8 考える力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 9 伝える力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 10 発表する力 | 1 | 2 | 3 | 4 |

(3) 「校外での課題研究活動」(フィールドワーク・各種発表会参加、見学)について

- |          |   |   |   |   |
|----------|---|---|---|---|
| 11 聴く力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 12 読む力   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 13 考える力  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 14 伝える力  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 15 発表する力 | 1 | 2 | 3 | 4 |

2 <内容・活動についての意識>

(1)

「探究Ⅱ」で学習した内容や取り組んだ活動について、どのように感じていますか。

以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 とても良かった 2 ある程度良かった 3 あまり良くなかった 4 良くなかった

- |                               |   |   |   |   |
|-------------------------------|---|---|---|---|
| 16 各自が自分のテーマを持って取り組んだ地域課題解決学習 | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 17 「課題研究メソッド」を用いた手法学習         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 18 専門家や地域の方を訪問・インタビュー活動       | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 19 校外へ出かけたフィールドワーク(海外研修を含む)   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 20 中間発表・マイブロシエクトなどのプレゼンテーション  | 1 | 2 | 3 | 4 |

(2)

「探究Ⅱ」の時間を通じて、以下のどの項目ができる(ようになった)と感じていますか。

以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 できる 2 ある程度できる 3 あまりできない 4 できない

- |                                  |   |   |   |   |
|----------------------------------|---|---|---|---|
| 21 主体的に調べものや取材を行う                | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 22 学校外の色々な人たちに話を聴きに行く            | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 23 グループで協力しながら学習や調べものを行う         | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 24 活動、学習内容について友だちと話し合う           | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 25 活動、学習内容について大人(教員、地域)と話し合う     | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 26 自分の考えを文章や図表にまとめる              | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 27 話し合った内容をまとめる                  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 28 活動、学習内容を発表する                  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 29 生徒同士で活動、学習した内容の振り返りを行う        | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 30 地域の魅力や資源について考える               | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 31 地域の課題の解決方法について考える             | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 32 日本や世界の課題の解決方法について考える          | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 33 授業で分からない事を、自分から質問し、わかる人に聞く    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 34 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べる    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 35 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求める   | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 36 友人などから、意見やアドバイスを求められて共に考える    | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 37 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えて、調べる  | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 38 公式や決まりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりする | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 39 今住んでいる地域の行事に参加する              | 1 | 2 | 3 | 4 |
| 40 地域社会などでボランティア活動に参加する          | 1 | 2 | 3 | 4 |

3<自己能力についての認識>

現在の自分の能力や性質についてどのように感じていますか。

以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 あてはまる 2 ある程度あてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない

- 41 現状分析し、目的や課題を明らかにすることができる 1 2 3 4
- 42 自分で計画を立てて活動することができる 1 2 3 4
- 43 うまくいくかわからないことも意欲的に取り組むことができる 1 2 3 4
- 44 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる 1 2 3 4
- 45 相手の意見を丁寧に聴くことができる 1 2 3 4
- 46 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる 1 2 3 4
- 47 友達の前で発表することは得意である 1 2 3 4
- 48 共同作業で自分の力が発揮できる 1 2 3 4
- 49 家で、自主的に学習することができる 1 2 3 4
- 50 教科書外で得た情報を、勉強したことに関連付けて理解できる 1 2 3 4
- 51 勉強したものを実際に応用してみることができる 1 2 3 4
- 52 複雑な問題を順序だてて考えることが得意である 1 2 3 4
- 53 自分を客観的に理解することができる 1 2 3 4
- 54 国や地域の担い手として、政策決定にかかわりたい 1 2 3 4
- 55 地域をよりよくするため、地域の問題にかかわりたい 1 2 3 4
- 56 将来、自分の住んでいる地域の役に立ちたい 1 2 3 4
- 57 自分が関わることで社会は変えられると思っている 1 2 3 4
- 58 社会の出来事に関心がある 1 2 3 4
- 59 選挙権を得たら、投票に行く 1 2 3 4
- 60 地域の課題と世界の課題は関連していると思う 1 2 3 4
- 61 将来、見知らぬ土地でチャレンジしたい 1 2 3 4
- 62 将来、自分の今住んでいる地域で働きたい 1 2 3 4
- 63 地域文化や暮らしを自分の手で未来に伝えたい 1 2 3 4
- 64 自分の将来について明るい希望を持っている 1 2 3 4
- 65 自分には良いところがある 1 2 3 4
- 66 今の自分に満足している 1 2 3 4
- 67 柏原高校に来てよかったと思っている 1 2 3 4

4<地域の学習環境について意識>

自分たちが住んでいる地域についてどのように感じていますか。

以下の4つの項目のいずれかをマークしてください。

1 あてはまる 2 ある程度あてはまる 3 あまりあてはまらない 4 あてはまらない

- 68 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある 1 2 3 4
- 69 挑戦する人に対して応援する雰囲気がある 1 2 3 4
- 70 目標や当事者意識を持って挑戦している人がある 1 2 3 4
- 71 地域に尊敬する・あこがれている大人がいる 1 2 3 4
- 72 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある 1 2 3 4
- 73 自分が挑戦しようと思った時、周囲は応援してくれる 1 2 3 4
- 74 人と違うことが尊重される雰囲気がある 1 2 3 4
- 75 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある 1 2 3 4
- 76 自分と異なる立場、役割を持つ人とのかかわりがある 1 2 3 4
- 77 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる 1 2 3 4

5<探究活動全般に関して>

探究活動全般について、難しかったことや困ったこと、うまくいったことなど自由に書いてください。

(マークシートに記述すること)